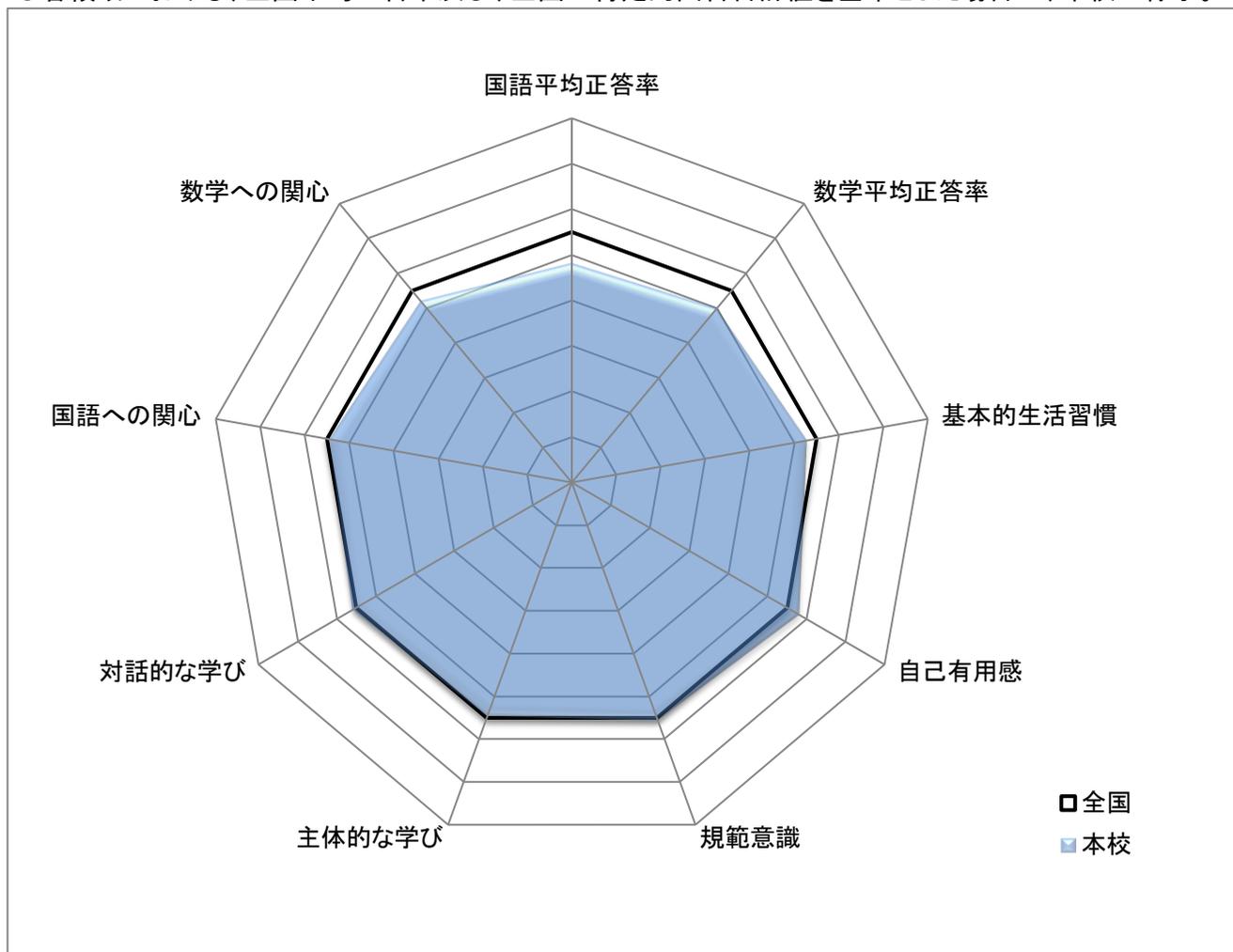


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】  
 全国平均正答率58.1%に対し本校では50.0%と、8.1ポイント下回っている。なお、100%の生徒が「国語の勉強は大切である」等肯定的にとらえているが、記述式の問題についての平均正答率が34.0%と低い(全国平均正答率45.5%)。問題文をじっくりと読み、解答する問題に苦手意識を持つ生徒が多い。また、答えられないとあきらめ無回答の生徒も少なくはない。また、「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率(56.0%)が、全国平均正答率(75.6%)よりおよそ20ポイント下回っている。

【数学】  
 全国平均正答率52.5%に対し本校では47.0%と5.5ポイント下回っている。国語と同じく「数学の勉強は大切である」等肯定的にとらえている生徒が82.3%いるのに対し、正答率は問題形式を問わず都平均正答率より8~10ポイント下回っている。

《授業改善のポイント》

【国語】  
 ①記述式問題について、苦手意識をもつことなく取り組めるよう、Yomuよむワークシートなどを活用し、読解力を身に付けさせる。  
 ②定期考査等で、授業で指導した記述の方法を生かして解答する問題を作成し、取り組ませる。

【数学】  
 ①基礎基本の定着にむけて、習熟度別少人数指導でより丁寧な指導を行う。また、デジタル教材を用いたり、ICTを生徒自身が活用し理解を深める授業を展開する。  
 ②グループによる教え合い活動や学び合いを適宜取り入れる。学習意欲の向上を図り、共に高め合える生徒を目指す。

《チャートの特徴》

全国平均とほぼ同じ形をしているが、国語及び数学の平均正答率はともに全国平均を下回っている。自己有用感をはじめ、規範意識、主体的な学び、対話的な学び、国語への関心はおおよそ平均と同じくらいである。基本的な生活習慣が身につけている生徒とそうではない生徒とがいるため、まずは生活習慣を見直し、家庭学習に力を入れて取り組ませれば、平均値とほぼ同じ形を保つことができると思われる。

《家庭・地域への働きかけ》

「平日にゲームをしている時間(スマートフォン等を含む)」で2時間以上と回答した生徒が58.8%(全国平均48.9%)、「平日に動画視聴を2時間以上している」と回答した生徒が67.7%(全国平均55.9%)など、スマートフォンやゲームに時間を費やす生徒が多いという現状がある。その現状をお便り等でご家庭に通知し、スマートフォン等の使用時間のルールを決める、使用時間を制限するなど、ご家庭への協力をお願いし、家庭学習の時間を増やすなどの働きかけを行う。